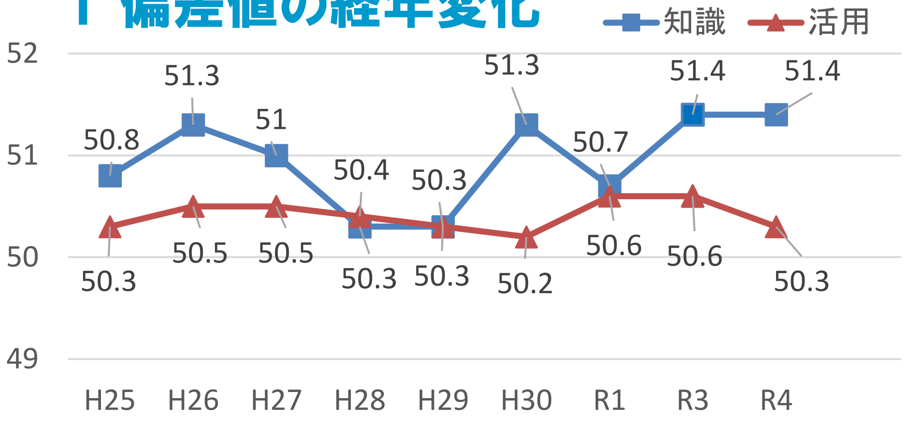
中学校数学　令和4年度大分県学力定着状況調査結果（市町村立学校）

■ 結果のポイント

※目標値・・・学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、正答できることを期待した児童・生徒の割合を示したもの。

1 偏差値の経年変化



○知識と活用ともに偏差値50を上回っている。

2 観点別の結果

観　点	県正答率	全国正答率	目標値
知識・技能	63.7	60.5	61.2
思考・判断・表現	50.6	49.6	50.0
主体的に学習に取り組む態度	50.9	49.4	51.9

○「知識・技能」「思考・判断・表現」において、全国正答率及び目標値を上回っている。

3 領域別の結果

領　域	県正答率	全国正答率	目標値
数と式	71.1	66.7	65.4
図形	57.6	56.4	57.2
関数	56.8	54.1	50.0
データの活用	49.6	47.6	56.7

○「数と式」「図形」「関数」において、全国正答率及び目標値を上回っている。

4 解答形式別の結果

解答形式	県正答率	全国正答率	目標値
選択	64.4	61.6	58.9
短答	60.1	56.8	62.3
記述	34.8	35.7	35.0

○「選択」において、全国正答率及び目標値を上回っている。

▲「記述」において、全国正答率を0．9P、目標値を0．2P下回っている。

中学校数学　令和4年度大分県学力定着状況調査結果（市町村立学校）

■ つまずきが見られた問題

大問14　県正答率32．4％
【ねらい】角の二等分線の性質を理解し、折り目の線を作図することができる。

【問題の概要】折り目の作図
（条件）辺ABと対角線ACが重なる

【正答】∠BACの角の二等分線を作図している。

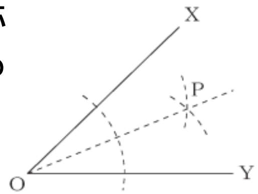
◆ 指導のポイント

○図形の対称性や図形を決定する要素に着目して**作図の方法を見いだし**、その方法を**説明する活動**を大切にする。

★ 指導の具体例

図形の対称性や図形を決定する要素に着目させる。

★紙を折って2辺OX、OYを重ねるなどの操作から「∠XOYの二等分線は、その角の対称の軸になり、頂点Oを通る」を見いださせる活動を取り入れる。
★既習の「直線は、2点が決まると1つに定まる」と関連付け「頂点O以外に、もう一つの点を探せばよい」ことに気付くことのできる活動を取り入れる。



「∠XOYの対称の軸上に点Pを探せばよい」という見通しをもって作図を行うことができる。

大問19（2）　県正答率28．8％　県無回答率26．9％
【ねらい】回転移動を用いて説明することができる。

【問題の概要】模様が重なるような回転移動を説明する。

【正答の条件】
「回転の中心」「回転の向き」「回転させる角度」を明らかにして説明している。
【誤答例】
回転の中心についての説明がない（20．5％）
回転の角度についての説明がない（ 5．6％）

◆ 指導のポイント

○**数学的な表現を用いて**筋道を立てて説明する活動を充実させる。

★ 指導の具体例

説明の過不足を生徒同士で補足できるような展開を設定する。

【図形の移動の数学的用語】
平行移動　移動の方向と距離
対称移動　対称の軸
回転移動　回転の中心、回転の向き・角度

★不十分な説明の場合は「何が足りないのか？」「どのような説明であればよいのか？」等を生徒に問い直し、生徒に補足させる。
★「説明の基本形」等を活用し、見通しを共有した上で説明活動を取り入れる。

数学の学習での説明の基本形（例）
①根拠となる考えを示し方針を明確にする。
～の考えが使えると思います。
～の公式をもとに考えるとよいです。
⇩
②取り出した情報を整理し計算等を行う。
⇩
③答えにつながる計算や説明を行う。
⇩
④答え（結論）を導き出す。